

B - 3

介護員の心の健康

コロナ禍

心の健康

ストレス

コロナ禍を経て

広島県広島市東区

ひろしまげんぱくようごろうじん
広島原爆養護老人ホーム神田山やすらぎ園介護員 な か た よ し あ き
中田吉昭

介護員 末宗 明奈

介護員 鍋島 広空

E-mail Address yasuragien@hge.city.hirosima.jp

FAX 番号 (082) 221-5985

施設（事業所）
またはサービスの
概要

当施設は、原爆被爆者の特別養護施設として、昭和 57 年 6 月に開設された介護保険適用外の施設です。入園定員は 100 名。平均年齢は 90 歳です。令和 4 年 1 月から約 3 ヶ月間の間、コロナウイルスクラスターを経験しました。

I. <取り組み課題>

2020 年国内で初めて感染が確認されたコロナウイルス。現在では感染症法上の分類が 2 類から 5 類に変更されました。その流れの中で、介護士の心の健康、メンタルヘルスはどうかだったのか、現在はどうかのか、介護職員の立場から捉えていきたいと思い取り組みました。

II. <具体的な取り組み>

現在の心の健康及びコロナ禍前との変化についてアンケートを採りました。アンケート内容はコロナ禍前（令和 4 年 1 月以前）と後（令和 5 年 8 月）のもので、K6 うつ・不安に対するスクリーニングの質問票の一部と独自作成のアンケートを使用しました。このころについて数値化することにより、自己覚知を促し、ストレスの解消法について記述式で答えて頂きました。

III. <活動の成果と評価>

K6 については予想していたものとは異なり、平均値でみると、コロナ禍前後で大きな変化はありませんでした。対象が 17 名と少人数であり、一部に極端な数値の変化がみられた人がいた為、平均値が大きく引っ張られた点も見受けられました。その他アンケート含めた結果から、職員の思いや感じていることについて以下が分かりました。

- ・慢性的にストレスを抱えている
- ・人によりストレスの耐性が異なる
- ・人により様々なストレス解消法がある
- ・ストレス解消として仕事とプライベートを分け、プライベートを充実することでストレス解消につながる

当初コロナ禍を経てストレス値が上がっており、休みが欲しいといった要望の結果が出ると予想していました。しかし、職員の個性や多様な価値観とそれに基づいた気遣いを感じる内容の結果がみられました。コロナ禍のストレスにおいても、時を経ながら個々で内包していく様子もわかりました。コミュニケーションがとりにくい今こそ、アンケートなどを行い、個々の視点でのチーム状態の把握が必要ではないかと思いました。

IV. <今後の課題>

今回は集計結果の提示や共有まで至っていない為、今後はそれらを行う事で、チームとしての共通認識が作りやすいのではないかと思います。

V. <参考資料など>

K 6 国民生活基礎調査で用いられるうつ・不安障害